

シグマ研究委員会
3年度第1回放射化断面積WG会合議事録

日時： 1992年1月31日（金） 13:30～17:30

場所： 日本原子力研究所本部 第1会議室

出席者： 浅見哲夫（NEDAC）、岩崎信（東北大）、矢野真理（MAPI、河北代理）、
河野俊彦（九大、神田代理）、八谷雅典（データ工学）、渡部隆（川重）、
池田裕二郎、中島豊（以上原研）

配布資料

1. IAEA-CRP "Activation Cross Sections for the Generation of Long-Lived Radioactive Nuclides of Importance in Fusion Reactor Technology"
2. IAEA Advisory Group Meeting on FENDL-2 and Associated Benchmark Calculations
3. JENDL Activation Fileに追加すべき反応のリスト
4. Priority of materials required for activation file
5. 評価断面積のプロット図
6. 放射化断面積再評価及び積分テストの状況
7. 核反応生成核の崩壊図表示用プログラムの作成（仕様書）
8. Specialists' Meeting on Fission Product Nuclear Data のFirst Circular
9. Experiment on Induced Radioactivity and Decay-Heat in the Framework of JAERI/USDOE Collaborative Program on Fusion Neutronics

議事

1. IAEA 会合報告

- (1) 池田氏が配布資料1により1991年11月11日～12日に開催されたIAEA RCM on Activation Cross Sections for the Generation of Long-Lived Radioactive Nuclides について報告した。
- (2) 中島氏が配布資料2により1991年11月18日～22日に開催されたIAEA Advisory Group Meeting on FENDL-2 and Associated Benchmark Calculation について報告した。

2. 評価作業報告

浅見氏が配布資料3、4、5に基づいて、本年度新たにリストアップした42反応の断面積評価の進捗状況を報告した。配布資料3のほぼ80%の評価を終了しており今年度中にはリスト中の全反応の評価を終了する予定である。

3. 積分テスト作業報告

渡部氏が積分テストの進捗状況を配布資料6に基づいて報告した。JENDL-3に対するDosimetryとFPの積分テストをまとめた。積分テスト対象反応をほぼ尽くしており、Z>32 JENDL-3から評価値を変更した反応があれば、再度積分テストを行う予定である。どの反応が変更されたか調査中である。C/Eが1から大きくずれている反応は $^{58}\text{Fe}(n, \gamma)$ 、 $^{109}\text{Ag}(n, \gamma)$ 、 $^{151}\text{Eu}(n, \gamma)$ 反応である。一番目の反応についてはDosimetry積分テストWGとあとの二つ

の反応についてはFP核データWGと連絡をとって、検討の上再評価などを行う予定である。

4. その他の報告

中島氏が配布資料7に基づいて核反応生成核の崩壊図表示用プログラムを作成中であるとの報告をした。本年度中に完成予定であり、来年度の作業を効率的に進めるのに役立つと思われる。また同氏が、配布資料8に基づいてNEANSC FP核データ専門家会議について報告した。Second Circularが来週中に配布される予定である。

4. 来年度計画

池田氏が配布資料9に基づいてFNSでの実験データとの比較によるJENDL activation Cross Section Fileの積分テストを来年度実施する事を提案した。この積分テストはファイルの間違いを見つけたり、評価値の妥当性をチェックするのに適しており、このWGで行うことに合意した。崩壊データは今年度核データセンターで作成したJENDL Decay Data Fileを使用して積分テストのシステムをWGで作成し、テストを実施する。これによりJENDL Decay Data Fileのチェックも同時に行う事ができる。詳細な計画は来年度早々にWGを開いて決定する事にした。